

社会福祉法人 翠耀会  
特別養護老人ホーム  
グリーンヒル



40th  
Anniversary



ごあいさつ

『社会福祉法人 翠耀会

特別養護老人ホーム グリーンヒル

四十周年に向けて』

理事長 津川 恵美子



二〇二〇年、この年は世界中の全ての人にとつて、忘れられない一年になったことと思います。一月下旬より、新型コロナウイルスの流行が始まり、その感染力の強さにより、大勢の方が命を落としました。世界中の国々がロックダウンとして国や都市の閉鎖、経済も止まり、病院はコロナ対応の他、通常の患者の受け入れも難しくなったり、また学校も閉鎖し、大学生は今も通学は不可、オンライン授業となつています。平和の象徴とも言える「オリンピック」も一年後に延期を余儀なくされました。こんなことは世界中の誰もが予測しなかった事でした。

この様な中、本来ならば創立記念日の十月に、お祝いの会を開催するところでしたが、当然その様な事は出

来るはずもなく、十月一日の朝礼時に、ささやかに四十周年を祝ったところです。グリーンヒルは、昭和五十六年、八千代市で初めての「特別養護老人ホーム」として、上高野の地に産声をあげました。あれから早いもので四十年の歳月が流れ、この間に日本の国も、日本の高齢者福祉の分野も大きく、大きく変わりました。

この四十年間、多くの方々、また職員の皆さんに支えられ、歩むことができました。ここに理事として長く翠耀会と共に歩んで下さった方々と、職員の皆さんからの想い出を「四十周年記念号」としてまとめています。

そして、また遠くない日に、この四十周年を祝う会ができますことを祈念しています。

どうぞご覧ください。



# グリーンヒルの心



## 一. ご利用者の笑顔を大切に

私たちは、ご利用者の方々が常に快適に過ごせるよう、ハートフルな福祉・介護サービスでQOL（生活の質）の向上に努めます。

## 二. 地域福祉のパイオニアたれ

私たちは、地域との連携を図りながら、福祉・介護サービスを積極的に展開し、地域福祉の先駆者としてチャレンジしてゆきます。

## 三. 学ぶ姿勢を大切に

私たちは、常にご利用者の方々から学び、「目配り」、「気配り」、「声掛け」ができるように自己研鑽をすすめてゆきます。

# グリーン・ヒルの歌

作詞 栗山 芳麿 作曲 宗 鳳悦



一  
大気さわやか 緑もゆたか  
ここに集いて心はひとつ  
福祉の社会築くため  
今日も看護（みとり）を  
愛の手を

その名もやさし グリーン・ヒル  
その名もやさし グリーン・ヒル

二

今日も流れるチャイムのしらべ  
他人（ひと）につくせとはげますように  
福祉の道は果てなくも  
友よ 手をとり進もうよ  
その名も清く グリーン・ヒル  
その名も清く グリーン・ヒル

三

愛の灯りを かかげて今日も  
つくす笑顔に あふれる誇り  
福祉のねがいこめて今  
愛の花園咲かそうよ  
その名も高く グリーン・ヒル  
その名も高く グリーン・ヒル

昭和六十一年三月二十五日



# ～こんなに変わりました～

餅つき



## 今も昔も男性陣が奮闘!

誕生会



## 個々のご要望に合わせて♪



布おむつ畳み



外で運動会



昔はこんなこともやってました

### 針供養

これまで硬い生地などを刺してきた針に対し、最後は柔らかいところで休んでいただきたいという気持ちや供養としての意味もあるそうです。





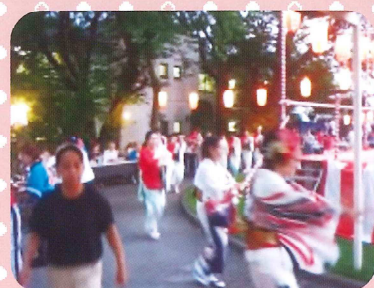
# 今も変わらぬ年中行事！

盆供養



## 時代と共に……

納涼会



## 開催場所も変わり、櫓あり♪

敬老会



## 家族参加型の催しへ

クリスマス



## 各ユニットごとのクリスマス会



『四十年間の歩み』

理事長 津川 恵美子



あれから四十年・・・

「光陰矢のごとし」と申しますが、まさにそんな気がいたします。今は県内に四八五箇所の特養がありますが、グリーンヒルは八千代市で初めて、千葉県で二十六番目の特別養護老人ホームとして誕生しました。あの時代は「介護」という言葉も「特養」という言葉も一般的ではなく、ごく一部の専門職の方にしか分からない言葉でした。五十床でスタートした時、集まってくる職員は、三十五歳〜三十六歳の子育ての終わった家庭の主婦の方々に

した。その時代は、職員を「寮母」と呼んでいました。力仕事ではありませんが、そのほとんどが女性であり、男性スタッフは数人でした。入居者の方々は今と違い、元氣な方も多く、職員と一緒に庭の草むしりや、おしぼりたたみを手伝って下さる方もおられました。グリーンヒルに足を踏み入れると、そこは穏やかな空気の流れる平和な空間でした。

所」と答えていました。当時は陶芸の窯もあり、焼き物を創作することもデイサービスに通ってくる皆さんの楽しみの一つでした。

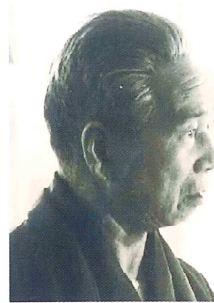
その後、高齢化社会と言われる時代に入り、二〇〇〇年に「介護保険」が創設され、時代は措置から契約へと大きく変化を遂げました。これにより、グリーンヒルが皆様に選んで頂ける施設になれるようにと「グリーンヒルの心（経営理念）」、「クオリティブック」を作成しました。クオリティブックには、職員のとるべき行動・あるべき姿が記してあります。今はこの「グリーンヒルの心」を月一回の朝礼や昼礼の場で皆で唱和しています。目まぐるしく変わる、この高齢者福祉の世界ですが、制度が変わっても、グリーンヒルの仕

昭和六十一年に千葉県で初の「デイサービス」が始まると、各地から見学者が訪問され、「デイサービス」の概念を学んでいかれました。私もよく、「デイサービスって何？」と質問され、バスの送迎もあることから「お年寄りの幼稚園みたいな

事内容や、在り方の根本的な部分が変わりません。「グリーンヒルの心」を中心に置き、これからも職員一同、邁進して参ります。翠耀会は五年前より、児童や障害、社会的養護を必要とする若者への支援も始めました。分野に関係なく、これからの必要なサービスを、必要な方に届けていく、そして、グリーンヒルらしさを大切に進んでいきたいと思えます。

今までを支えて下さった多くの方々から感謝申し上げます。そして最後になりましたが、翠耀会と共に歩んでくれた人勢の職員の方々に同じ感謝の気持ちでお礼申し上げます。

『祖父・山口要作について』



グリーンヒル八千代台を設立した十三年前から、たまに祖父・山口要作のことを話題にして下さる方が居り、今でも覚えて下さっている方が居ることに、私はささやかに感動をしておりました。

祖父が亡くなったのは私が中学一年の秋です。

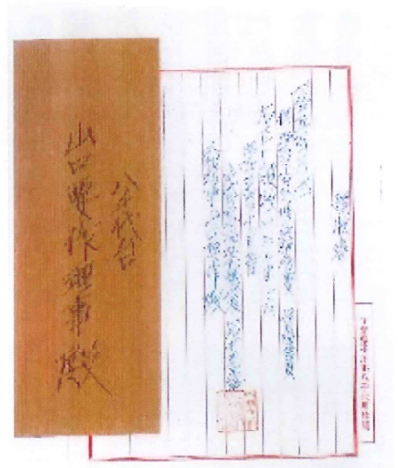
した。明治生まれの祖父は無口で、あまり話をした記憶もないのですが、初めての女の子の孫だった私を、とても可愛がってくれました。祖父のあぐらの中は、私の特等席で、祖父はいつも私をあぐらの中に入れ、テレビで相撲を観るのが日課でした。小学校の帰り道に祖父の家に寄ると、麦わら帽子をかぶり、玄関先の芝桜の手入れをしながら、私の姿を見つけるとニッコリ笑う祖父でした。祖父が亡くなり四十八年が経ちます。数年前に古い書類を見つけ、八千代町役場の便箋に記した、八千代町社会福祉協議会からの「理事会開催通知」がありました。祖父に宛てた封筒には、「山口要



<p>社会福祉事業協働者推薦書</p> <p>推薦者氏名 津川 恵美子</p> <p>推薦者職名 理事長</p> <p>推薦者住所 千葉県八千代市八千代台一丁目一丁目一丁目</p> <p>推薦者電話番号 0476-82-XXXX</p> <p>推薦者Eメール yamaguchi@xxxxxxxxx</p> <p>推薦者印 津川 恵美子</p> <p>推薦者印 住所 千葉県八千代市八千代台一丁目一丁目一丁目</p> <p>推薦者印 電話番号 0476-82-XXXX</p> <p>推薦者印 Eメール yamaguchi@xxxxxxxxx</p>	<p>推薦者氏名 津川 恵美子</p> <p>推薦者職名 理事長</p> <p>推薦者住所 千葉県八千代市八千代台一丁目一丁目一丁目</p> <p>推薦者電話番号 0476-82-XXXX</p> <p>推薦者Eメール yamaguchi@xxxxxxxxx</p> <p>推薦者印 津川 恵美子</p> <p>推薦者印 住所 千葉県八千代市八千代台一丁目一丁目一丁目</p> <p>推薦者印 電話番号 0476-82-XXXX</p> <p>推薦者印 Eメール yamaguchi@xxxxxxxxx</p>
---	---

社会福祉事業協働者推薦書





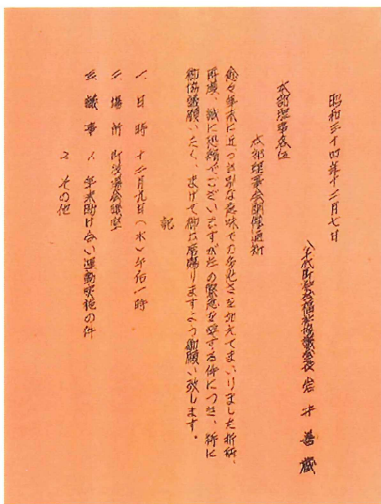
昭和34年度社協会費  
手書き領収書

作理事様」とあり、祖父が当時の社会福祉協会の理事であった事がうかがえます。日付は、「昭和三十四年十二月」とあり、私の生まれる三週間前でした。これをきっかけに、今回、祖父について調べてみました。祖父・祖母は昭和三十年頃、八千代台の開拓とほぼ同時に都内から転居し、昭和三十二年八千代台自治会の設立時に自治会の副会長を二年間務めた後、昭和三十四年から八千代町議会議員を務め、また同年に社会福祉協議会が設立された時の常任理事として

構えなければ、グリーンヒルも朝戸病院もなかったと言えます。祖父が土地を購入して、父に貸付し、父・朝戸健志が慈恵医大に勤務しながら、夜間診療から始めたのが朝戸病院の前身の「朝戸医院」です。

今回の四十周年の節目に、改めて祖父・山口要作のことを叔父や親戚に聞き、祖父がどのような人生を歩んできたのかを振り返ってみました。改めて祖父の人生を振り返り、時代もあることながら、激しく時代を生き抜いた人であった

たことを思います。私自身も大人になった今、祖父が生きていたら、どんな会話ができたのだろうかと、想像します。偶然、四十周年になる十月は祖父の命日の月であり、没後四十八年が経ち、思い出も風化しつつある昨今であります。こんな風に祖父をしみじみと思いつくこともあまりない出すこと、改めて祖父を思い出しながら、気持ちを更新してまいります。また、この八千代の地で縁があった方々に感謝を申し上げます。



昭和34年12月  
当時の理事会通知

出生

明治三十六年一月 富山県魚津市海軍兵学校合格。広島県江田島へ。陸軍士官学校に志願・陸軍少尉に。陸軍中野学校に入学  
(戦前日本軍の二人秘密組織)  
東京物理学校(現在の東京理科大学)入学  
理化学研究所に就職  
(アルマイト染色法・発明)

昭和十四年

理研アルマイト工業(株)に就職

昭和二十年

三月 召集令状がきて戦争へ  
通信隊の隊長としてフィリピン・マニラへ

八月

終戦 ベトナムで捕虜となり三年間を過ごす

昭和二十三年

帰国・魚津へ

昭和二十六年

東京にて独立  
コロナ工業(株)設立  
(金属工業会社)

昭和三十年

八千代台に転居

昭和三十二年

八千代台自治会副会長

昭和三十四年

八千代町議会議員

昭和四十五年

八千代町社会福祉協議会理事  
勲五等雙光旭日章を授与される

昭和四十七年

十月 死去(七十二歳)



『更なる四十年へ向けて』  
常務理事 津川 康二



グリーンヒルが四十年を迎えることができたことに、千葉県、八千代市、そして関係各位の皆さんに心より感謝申し上げます。私からは二つのエピソードを報告し謝辞といたします。

一つ目は故・飯倉衛（いいくらまもる）先生です。グリーンヒル創設者 朝戸健志会長の恩師であり、同じ慈恵医大の先輩であられた飯倉先生は、グリーンヒル創設の際に、笹川財団との懸け橋をいただきました。上地もない、設立資金も不足の中（当時は三分の二

であることを教えてくれています。

二つ目は、介護保険制度創設とグリーンヒルです。二〇〇〇年介護保険制度創設。福祉介護サービスの大きな変革を迎えました。ちょうどグリーンヒル二十周年目のことです。

「グリーンヒルはどうなる？」「グリーンヒルが目指す方向性とは？」「グリーンヒルは何をすべき？」等など職員と議論を重ねたことが懐かしくも感じます。しかし、結果として、グリーンヒルには迷いはありませんでした。平成十年に二代目として理事長職を継承した津川恵美子理事長が示した「グリーンヒルの心」を主体に、我々の使命・責任とは、「ご利用者、ご家族の声に耳を傾ける、寄り添う」ことであり、そのために必要なサービスを展



開することであつたからです。同時に「地域に必要とされる、愛されるグリーンヒル」を命であります。繰り返しになります。多くの皆さんに心から感謝申し上げます。そして、この四十年を正しく振り返り、次の四十年へと継承して参りたいと実感しています。それは、誰が経営しているかではなく、グリーンヒルはグリーンヒルとして、今後も必要としていただけるご利用者、ご家族の為に、そして、この地域で大切にされ、愛されるグリーンヒルであることと。

私は昭和十年に内城小学校に入学しました。あの頃は洋服がなくて、着物を着て裸足で学校に通った思い出があります。後蘭部落は電気もなく、石油ランプで勉強していました。父が小学校の先生でしたので、小学校四年の時、和泊小学校へ転校しました。学年四組で一学級四十人くらいだったと思います。夏の暑い時です。たまたま引き潮の時に貝拾いをしていたら満潮になり、何とか泳いで海岸にたどり着くことができたが、そのことを母に話したら、「今



『小学校時代の思い出』  
故・会長 朝戸 健志 記



後は絶対に海に行くな」と怒られたことがあります。

年に一回、高千穂神社で和泊・国頭・大城・内城の四校による相撲大会がありました。一学年から二名ずつ、合計十六名が出場していましたが、内城小学校は生徒が少なく、二五〇人程度でした。和泊小学校一〇〇〇人、国頭小学校四〇〇人、大城小学校四〇〇人位だったと思いますが、いつも和泊、大城が勝っていました。また、世の主神社で年に一回、大城小学校・内城小学校の奉納相撲大会があり、出場したことがあります。その時の相撲の先生は南明善先生でした。その頃、父が原因不明の高熱の病気にかかりましたが、当時の永

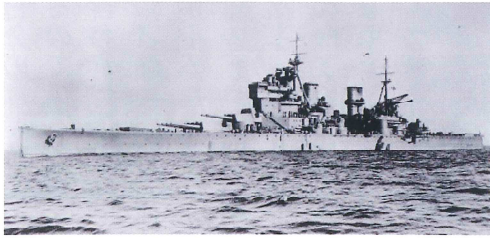


野医院には病室がなく、後蘭から和泊までは一〇キロメートルあり、往診は不可能でした。和泊に家を借りて治療に通ったことがありません。治療の甲斐あつて父は全快しました。

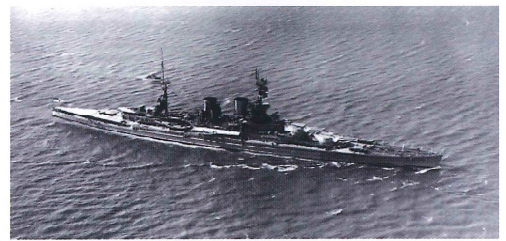
その年の十二月八日に太平洋戦争が始まり、午前八時頃ラジオから臨時ニュースが流れてきました。「本八日未

明、帝国陸海軍は米英と戦闘状態に入り、日本軍は本八日未明、ハワイ真珠湾を攻撃し、米艦五、六隻を撃沈せしめた。父からも、「このチャンスに東京に連れて行ってもらい医者になれ。」と言われ、昭和十六年八月に上京しました。

後蘭の部落を出るとき、田植えをしている近所の人達に、「健志よ、しっかり勉強して医者になり、私たちの体を見てくれよ。」と言われ、部落の人達と別れるのがさびしくて泣きながら東京へ行ったことは今でも懐かしく思い出します。東京



プリンス・オブ・ウェールズ (戦艦)

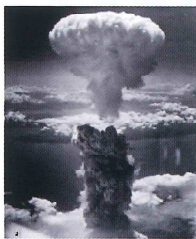


レパルス (巡洋戦艦)

軍艦マーチが流れてきました。初戦は優勢でしたが、徐々に劣勢となり、東京・神戸・大阪等の軍事産業のある都市は空襲にあい、都会は焼き野原となりました。

昭和二十年三月十日、荒川区熊野前に焼夷弾が落ちて、たまたま風が強く浅草・本所・深川まで丸焼けになりました。私は上野公園に逃げましたが、帰ってみると荒川区の永野医院は全焼し、浦和まで五〇キロメートルくら

い歩いて行きました。あの時、電車は不通となり、リヤカーに荷物を積んで長野や新潟に避難する人が大勢いました。特に、昭和二〇年八月六日、九日には広島・長崎に原子爆弾が投下され、一度に十万人以上の人が亡くなりました。八月十五日に終戦となりました。



原子爆弾投下

東上線に乗り、川越より秩父の山奥へサツマイモの買出しに行きました。正月になると、長野の杉浦家へ行き、大きな餅を五、六個食べました。本家の爺さんに「そんなに沢山食べて大丈夫か。」と言われたこともありまし

ました。その翌日、部落の人が集まり歓迎会をやってくれ、本言に楽しかったです。特に、久志検の祖母は竹の子とバナナなどを孫に食べさせると言って持つてきてくれたのには本当に感激しました。

私達は中学四年のとき、勤学動員で千住大橋の日本製靴株式会社で軍靴を作っており、そこで終戦となりました。まだ子供でしたので、手を叩いて喜んだ記憶があります。

戦後は食糧不足が二、三年続き、年に五、六回、長野の杉浦家へお米をもらいに行きました。また、池袋から

昭和二十六年に島で兄が結婚式をするというので、私は鹿児島から密航船に乗り十年ぶりに(二十一歳のとき)永良部へ帰りました。あの頃は北緯三十度線で日本から分断され、沖繩と一緒に米軍に統治されていました。十二歳で上京し、二十二歳になるまで十年間、父母兄弟に会っていませんでした。島に帰ったら、克己、正己は小学生でした。末男は三歳くらいで、母に抱かれおっぱいを飲んで寝ていたのでビックリし

ました。卒業後、大井外科に入局となりましたが、入局二年目の時でした。日本は鉄がなくて困っている時代で、ニューギニア・ラバウル近くに沈んでいる船をスクラップにして日本へ持っ



てくる会社（大阪の岡田サルベージ会社）が三〇〇人の従業員を連れて行くことになり、日本人のドクターとして私が同行しました。約十カ月現地に居ましたが、帰国してから三カ月後にマラリヤにかかり、治療に苦勞しました。

私は大井外科で八年間勉強してから、昭和三十九年に千葉県八千代町で開業し、昭和四十三年に増築して朝戸病院を造りました。

高齢者が脳出血や骨折などで入院し、完治して退院しても、孫が



朝戸病院

自分の部屋を使っているので帰る所がないと言われ、「それでは高齢者が安心して住めるホームを造ろう。」と思いい、「特別養護老人ホーム グリーンヒル（一二〇床）」を造りました。



特別養護老人ホーム グリーンヒル

私は永野先生に大変お世話になり医師になりましたが、恩返しも何もしていませんので、社会奉仕しようと思いい老人ホームを造りました。この老人ホームは日本船舶振興会（会長・笹川良一）より補助金

をもらい、八千代市で初めてできた特別養護老人ホームです。千葉県においては二十六番目の施設でした。（現在は一六〇ぐらいいあります）。



セント・マーガレット病院

は医師不足や看護師不足で困っています。十年・二十年先を考えると、看護師養成を現在より二・三割増加させると共に、フィリピン・中国・東南アジアなどからナース・ヘルパーを日本へ受け入れないと、これからの高齢化社会に対応できないかもしれません。

朝戸病院もベッド数が不足してきて困ったので、将来を考えて「セント・マーガレット病院」を昭和六十二年に開設しました。セント・マーガレット病院は敷地六〇〇坪、建物三二〇〇坪（六階建）、ベッド数三〇〇床の規模で地域住民から大変喜ばれています。

現在、全国的に少子高齢化が進み、地方で

「後蘭字誌」より（平成二十年 七月一日発行）

## 『四十年間を振り返って』

初代施設長 朝戸 澄子



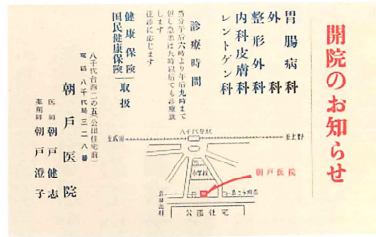
「特別養護老人ホーム」「特養」この様な言葉がまだ巷間に馴染まれていない時期に「社会福祉法人翠輝会グリーンヒル」は誕生しました。

この様に、永い歴史の中には、少なからずの障害もありましたが、これら乗り越えられたのも、熱い思いで集まってくれた職員の先駆者としての誇りと、努力の賜物と今でも感謝しています。

介護と言うマイナスのイメージがある中、高齢の入所者の皆さんを自分の親のように親身に笑顔で接し、また入居者の皆さんも職員を家族のように信頼している光景は、目頭が



熱くなり、この地に介護施設を開設して間違いがなかったと喜びと共に確信しました。



朝戸医院開院チラシ



グリーンヒルキッズ

その後、県内初のデイサービスの開設、昭和六十二年、開設から六年後に、隣地に「セントマーガレット病院」を開院し、念願であった「医療と福祉のまちづくり」が実現しまし

た。

その後、幸いに後継者にも恵まれ、現在は高齢者施設のみならず、子ども達の「放課後等デイサービス」や「自立援助ホーム」と事業の幅を広げてくれました。

人生百年時代に、ここに迎える四十周年は人間に喩えるならば「不惑の年齢(とし)」です。

「五十にして天名を知る」如く、次なる五十年に向け、社会貢献を含む福祉事業にさらに邁進していくことを切に望みます。

これからの翠耀会が「翠玉(エメラルド)」の如く耀かしいものであることを衷心より祈念します。



エメラルド

『社会福祉法人翠耀会』

創立四十周年に寄せて

理事 杉山 智基



金木犀の香る爽やかな季節に、社会福祉法人翠耀会が創立四十周年を迎えると伺い、心よりお祝い申し上げます。

思い起こせば、私が翠耀会の理事として委嘱されたのは平成八年だったと記憶しています。以来二十四年余り、理事として法人の経営や関連施設の運営について関わらせて頂きました。当時は特別養護老人ホームグリーンヒル上高野の運営が中心でしたが、津川恵美子理事長と津川康二常務理事を中心に、介護サ-

ビスの向上に努められ、利用者からの信頼が厚く、地域で最も安心して利用できる総合的福祉施設として成長しました。これも一重に津川理事長のご人徳と津川常務の経営能力、幹部職員的情熱や全ての職員の日々の努力の積み重ねによるところであると確信しています。

特別養護老人ホームという形態の福祉サービスが千葉県においてまだ模索段階だった四十年前に創設者である朝戸健志初代理事長、朝戸澄子施設長による先見性の高さでフロンティア精神により、八千代市に於いてグリーンヒル上高野が産声を上げたと聞いております。創始の精神が引き継がれ、大きく花開い

ている事に改めて関係者各位のご尽力に心より感謝申し上げます。介護における環境は時代の変化と共に大きく変わろうとしています。この様な時期に翠

耀会が四十周年を期に更なるサービスの充実と新たなサービスに挑戦し続けることを祈念してお祝いとさせていただきます。

『あつという間の二十年でした』

顧問 井上 昌知



四十周年おめでとうございます。四十年前からグリーンヒルに勤められた方はもう退職をされているのではと思いますが、この間勤めていただいた方々に感謝の言葉を捧げたいと思います。

私はちょうど二十年前から顧問として仕事をさせていたお仕事をしますが、この時期は介護保険が発足し、特別養護老人ホームへの利用が「措置」から「契約」に切り替わった時期でした。措置という制度は今でも児童福祉などに残っている制度ですが、政府が入る施設を選び、政府が措置費を払って施設に入所するという制度です。これに対して介護保険は契約ですから、入所者が入る施設を選び、自分が払っている保険料で費用を払う制度です。もちろん自己負担もあり、入所希望者が多いため、なかな



か自分の選択の自由は望めませんが、基本的には施設の経営者は多くの利用者が喜ぶように施設のいろいろなサービスを考えていかなければならないのです。

私は顧問になる前に、

厚生省、社会福祉事業団、休暇村協会などの仕事に携わってききましたので、この経験と知識をもとに、月一回の管理運営会議の中でいろいろとアドバイスをしてきました。この二十年間の皆さんの努力により、地域密着型のグリーンヒル八千代台や、国が進めている地域包括ケアシステムを担当する地域包括支援センターなどの組織が増え、職員も収入も二十年前の三倍以上に増えています。また、児童福祉関係の事業も放課後デイサービスと自立援助ホームの二つの事業が増えています。

あつという間の二十年でした。

一方、日本の高齢者人口の様子を見ると、六十五歳以上の人口は今や三千万人を超え、現在世界一の高齢化率になっています。

二〇四二年には三千九百万人になり、ピークに達すると推定されています。八千代市の高齢者人口の割合は、日本の平均より少し低いのですが、長い目で見ればそう大きな差はないでしょう。つまり、若い人口が増えないために高齢化率が上がった、あと二十二年で六十五歳以上の人口は減り始めるのです。特養の需要は減少に向かうということを考えておかなければなりません。

もあつという間に過ぎていくことは同じでしょう。次のステップを今

「地域密着型サービス」への繋がり  
高齢者複合ケア施設グリーンヒル八千代台  
施設長 小澤 久雄



本部施設、特別養護

老人ホームグリーンヒルが開設四十年の歩みを迎えました。当時の様々なことが脳裏に思い起こされます。

このような歩みの中、平成十八年四月改正介護保険法により「地域密着型サービス」が創設され、翌年平成十九年十月、八千代台西地区に、八千代市の指定を受けた「グリーンヒル八千代台」（小規模特別養護老人ホーム・

からいらんでおくことが必要です。

短期入所生活介護・小規模多機能居宅介護・居宅介護支援）総称、高齢者複合ケア施設が開設となりました。協力病院であった「朝戸病院」、旧千葉ガス社の大きなガスタンクが設置されていた場所、そして建物面前には八千代台西小学校、隣接八千代台西中学校、八千代台西保育園があり、懐かしみや改めて感動のところでした。

しかしながら、上高野地区から八千代台地区へ、開設後右も左も分らない、そして「地域密着型（地域包括ケア・高齢者が住み慣れた地域で、安心し

てその人らしい生活を継続するため、高齢者のニーズや状態の変化に応じて、切れ目なく必要なサービスが提供される……」の括り、具体的に何をどの様に



現場にいたんですね

納得させられました。以来、ご家族様へお声掛けをさせて頂き、「手作りお弁当」を持ってお花見に出掛けたり、母の日・父の日に手作り料理を振る舞い、ご利用者、ご家族様と共に盛況の時間を過ごしています。

更に、社会福祉協議会八千代台西北支会・八千代台西北地区民生委員児童委員協議会の元会長・佐久間福司様のご紹介により、地区ふれあいフェスタ（毎年十月）への参加、八千代台西中学校吹奏楽部の皆さんの訪問演奏、また体育館でのスプリングコンサート、正面玄関入口左側の壁面絵画等、地域の皆様や子供達との交流を始め、八千代台西小学校各学年の生徒との授業学習等の交流に至りました。また介護保険改正により、平成二十四年七



月小規模多機能型居宅介護サテライト勝田台の開設にあたり京成サンコーポ勝田台マンション管理組合理事長・中原義明様にもご理解を賜り、ご支援を受け、清掃活動への参加、年末助け合い活動の「餅つき」のご協力をさせ

て頂いております。「住み慣れた地域で普通の生活を」今後共、さらなる「普通の生活」がご提供出来ますよう、八千代台、勝田台職員一同歩んで参ります。今後共、皆様のご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

『施設高齢者の栄養・食事サービスの改革』

～要介護者の低栄養状態改善～

栄養科管理栄養士 木下 福子



高齢者福祉施設において、介護保険制度の理念に基づき、給食管理は「人の尊厳であり、活力の源である食を食べることは、生活機能の向上を図る」「人間栄養学」への栄養・食事サービスのマネジメント体

制が創設された。(二〇〇五年)給食(モノ)から栄養(ヒト)への変革であった。多職種協働体制が給食管理との相互連携マネジメントが基盤となり、適切なケアプランと一元化するシステムが求められた。連続的にご利用者の低栄養状態の改善、要介護状態の重度化、咀嚼嚥下困難者の安全で適正な献立の食事の試作、改良の検証はご

利用者から学び、最初に一口までその人らしい尊厳ある食事を供給する栄養ケアマネジメントは、グリーンヒルの理念(学ぶ姿勢を大

『開設時の思い出』

元事務員 青沼 和子



朝戸会長と

切に、ご利用者の笑顔を大切に)を実践した。生活支援の命の源である栄養・食事管理、深い淵なヒューマンサービス向上に努めます。

グリーンヒルの開設にあたり、朝戸施設長は当時の仮住まいに面接に来て下さいました。当時、私は社会福祉法

青森県の八戸に三人で研修に行かせていただきました。研修期間中、私が担当した男性のY様は喘息持ちで、ゲボゲボと食べた物を全部吐き出す方で、私は心の中で泣きながら焦り、苦戦し、そして私が担当した事により、どれ程の量の栄養が身についたのかと反省ばかりでした。種差海岸で心を落ち着かせ、「介護



研修先にて

人が何かも分からずに日本一の施設を作りたいという熱い想いに、ただワクワクしながら聞き入りました。昭和五十六年九月、

『遠い日の思い出』

介助員 平林 道子



は無理……。帰ったらすぐに話そう……。」スタート時に必要な沢山の書類は持ち帰りました。ところが、ホームに戻ってみると、三人で行ったはずの研修、他の二人は辞めてしまい、退職の話は言い出せぬまま、やりながら学習

三十年も昔のある日。今の時代では考えつかない仕事をしていたグリーンヒルの一日。四つのベッドを移動して始める掃除の日は、まず身支度をして長靴を履き、エプロンをした看護主任の坂口さん

と一緒に、最近駅などでも見かけなくなった「ポリッシャー」というとても重く、床を洗う大きな機械で、それを私が動かし、床を洗っていたのです。その後ろから坂口さんがモッ



当時の生花クラブ



ブで綺麗に拭くのです。でもやりました。今考  
そして、綺麗になった。えれば、楽しくもあり、  
その後を、現在八千代 おかしな情景でした。  
あの頃を知っている 職員も居なくなり、寂  
がワックスをかけてい しい今日この頃です。  
ました。

昔は業者なども居な 時代の流れについてい  
い時代で、自分達で何 けない私です。

### 『グリーンヒル四十周年に想いを寄せて』

元医務室 看護主任 坂口 まさる



昭和五十六年九月、

私は開設準備中のスタッ  
フに採用されました。  
八千代台の朝戸病院と  
上高野のホームを往復  
しながら皆さんと一緒  
に準備を手伝い、オー  
ブンに向けて希望と不  
安な毎日でした。九月  
吉日に行われた開設セ  
レモニーがとても豪華  
で、賑やかでしたが、

それと同時に職員全員  
が今後に向けて、緊張  
と責任の重さを感じた  
瞬間でした。家に帰る  
とソファーに寝込んで  
しまう事が度々あった  
ことを思い出します。

十月に入り、数名ず  
つ入所の受け入れを開  
始、経験のある職員が  
少なく、混乱する場面  
もあり、必死に動いて  
いました。私は朝戸院  
長と入所する方の事前  
面接に同行してしまし  
た。先生がお年寄りに  
優しく、色々な要求を  
全て快く受け入れる為、



開設当初の医務室風景

「出来るだろうか…」  
と、不安でした。また  
医療器具や物品等、ほ  
んど整っていないかつ  
たと思います。そんな  
日々をとにかく無我夢  
中で過ごし、入所の方  
も少しずつ増えていき  
ました。

初回に入られた方の  
一人が「家に帰りたい」  
とほとんど食事を摂ら  
なくなり、衰弱…  
ホームで出来ることは

点滴ぐらいで、自分た  
ちの無力さを二名のス  
タッフで嘆きました。  
この経験が私の三十  
年間の原点となつて、

その時々自分の持てる  
力を全て出せるように、  
後悔のない看護、介護  
をする努力を惜しまな  
いようにと心に留めた  
のです。その後三十年、  
福祉の世界は大きな存  
在となり、発展してい  
ます。



当時の入居者

色々な仲間と出会い、  
たくさん経験させ  
てもらったと思います。  
本当に思い出として、  
今も懐かしく、私の人  
生がグリーンヒルその  
ものように感じてい  
ます。益々のご発展を  
陰ながら見守ってい  
たいと思います。

### 『私の原点』

小規模多機能居宅介護

管理者 日高 和枝



ケアが確立されてきま  
した。

昭和六十一年四月に  
入職し、特別介護棟  
(痴呆棟)に配属され  
ました。ホールと居室  
だけの生活感のない世  
界が私の介護の第一歩  
でした。今では、認知  
症と言われ、いろいろ  
な部分で研究され、理  
論的になり、ユニット  
私のデスク上にはい  
くつかの写真と葉書が  
あります。時間が経つ  
につれて深まる思い出  
…。その一つに平成七  
年、デイサービス担当  
時代に「山田さん」よ  
り頂戴した「御礼葉書」  
があります。お歳は九  
十歳を超えており、住  
み慣れた自宅を都市計  
画で手放した後、八千  
代市へ転居。その時に  
デイサービスをご利用



されました。程なくして、再度転居された為、短い間のご利用となりましたが、利用中はいつもおもてなしの気持ちで、声掛けに、にこやかに応じられていた姿が印象的でした。

「葉書」にはこう書かれております。「笑顔がとても大切なこと、しみじみとわかります。(中略)みなさんの笑顔に支えられて、最期まで私らしく暮らしていきたいと思えます。」この言葉を私の介護のバイブルとして歩んできました。老いても、例え認知症になっても、何も分からない人ではなく、必ず「私(自我・人生)」がいます。「私らしさ」をご支援助けるよう、これから素敵な出会いを重ねていきたいと思えます。

『 創立四十周年記念』

おめでとーございます。

元ケアマネージャー 佐藤 洋子



仕事を始めた頃のことです。

多くの方々の日常の様子を目にするようになりました。日の出に向かって合掌している方、涙ながらに懐かしい歌をうたっている方、家族写真を肌身離さず持っていて、時折笑顔で見せて下さった方、「〇〇の停車場へ連れて行って下さい」と懇願する

方等々、それぞれの人生に触れる瞬間が多くあったのです。それ以来、私はその方々に寄り添いたいという気持ちになっていったのです。

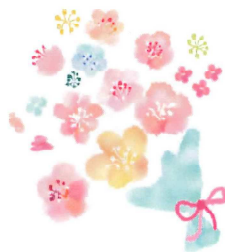
十三年間勤務出来たのも人生豊富な方々の心の触れ合いがあったからと思っています。

『 あれから、十年・・・』  
グリーンヒル若葉ハウス 関根 良江



思い起こせば十年前、二〇一〇年十一月十三日、ウィットシユトンホテル・ユーカーで法人創立三十周年記念祝賀会が開催されました。会場には法人関係者が約三百人集まり、盛大にお祝いをさせていた

長い間地域の方々に手を差し伸べているグリーンヒルのスタッフの皆様へ感謝しております。ありがとうございます。



いただきました。千葉県高齢者福祉施設協会の田邊会長から、当法人の朝戸健志会長が社会福祉功労として感謝状を授与されました。お元気で穏やかなお姿が今でも目に浮かびます。

アトラクションでは沖繩三線の演奏と琉球踊り、職員の獅子舞、その頃流行っていたマツケンサンバ、職員代表が「グリーンヒルの心」を唱和し、法人全

体が一つになった瞬間でした。私はその当時、総務課の課長で祝賀会の司会進行をさせていただきました。実はこっそりアナウンス講習を受け、大切な使命にえられるよう備えました。発生練習など必死でし

た。無事に終了した時は、心からホッとしたことを覚えております。現在は自立援助ホームの指導員として十代後半女子の支援をしています。また二年目ですが、今後も精一杯努力してまいります。

『 在宅介護支援センターを経て』  
通所介護課 課長 恩房 憲克



した。(平成十八年度からは、地域包括支援センターに変わり、各地域に相談窓口があります)

在宅介護センターは、平成十三年に八千代市の委託事業として、当時は八千代市内の五施設の社会福祉法人に委託され、各施設に担当を一人おいて業務を行っており、私は平成十六年から十七年の二年間担当させていただきま

り、八千代台東南地区と村上団地地区が担当で、六十五歳以上の一人暮らしの方、老人世帯の方々への相談支援を高齢者福祉課(現在は長寿支援課)のケーサーワーカーや、保健センターの保健師、理学療法士の方々と行って



いました。

一人暮らしの方へ電話で安否確認をしたり、自宅へ訪問しお話を聞いたり、時には電球を変えて欲しいなどの相談もあり皆様とお会いできる事を楽しみにしていました。緊急の相談や、ご家族様や民生委員からの相談もありました。また、病院の受診に同行したり、自宅での支援をケアマネー

ジャーに繋げるケースもあり、多くの方々と関わらせていただきました。私は現在も在宅関係の部署で業務をしていますが、あの当時の在宅介護支援センターに携わることができ、とてもいい経験が出来たと感じています。今後とも今までの経験を活かし、従事して参りたいと思います。

『グリーンヒル四十周年に寄せて』  
元部長 青野 正通



四十周年、誠におめでとうございます。

同時に、この間約十年、法人・施設の発展に関われたことを大変嬉しく思っています。



さて、平成十四年頃、全国的にユニットケアや寄り添うケアが注目



されていきました。三丁目にユニット的ケアを導入し、色々な模索があったと記憶していません。

そのような折、八千代台で入所者様の空家となった民家をお借りして、逆デイサービスを実施し、千葉県のモデル事業となりました。

『グリーンヒルの今後 施設サービス課 課長 名輪 陽一』



私は、四十年という長きに渡り、ここ八千

逆デイサービスは事業として成り立たないので、定員九人の痴呆（当時はこう呼ばれ、現在の認知症）専門通所介護・グリーンヒル八千代台南デイホームを開設しました。どんな重度の方も引き受け、玄関には鍵をかけず、徘徊にも徹底して寄り添い、出来る方には昼食と一緒に作って頂いたり…。

これは現在の私の認知症ケアの原点です。グリーンヒルの益々のご発展をお祈りいたします。

代市に於いて高齢者や児童福祉等、幅広い分野で社会福祉の一端を担ってきた先人の考えに、思いを馳せて邁進してきました。

介護分野における職員の確保が非常に難し

い時代となり、技能実習生等を受け入れながら、外国人スタッフと一緒に働いていくことが一般的な世の中となりつつあり、グリーンヒルでも多くの外国人スタッフと共に日々研鑽しております。

今後は、より一層個人人の能力を要する時代になると思われるので、一人一人の教育を大切にした人材育成、互いの協力を惜しまない調和のとれた体制を確立し、これからも皆様方のご協力を賜りながら、地域に根差した、社会福祉への貢献の一端を担っていききたいと思えます。

『八千代市勝田台地域包括支援センター 開設を振り返って』  
センター長 武田 信子



田台二丁目事務所を開設しました。

地域包括支援センターの役割は、地域住民が気軽に相談できる窓口として位置づけられ、社会福祉士・主任介護支援専門員・看護師の三職種三人が配置されました。業務内容も明確になっていない手探りの中で、日々過ごし

平成十八年四月、八千代市は、市内六か所に地域包括支援センターを設置しました。社会福祉法人翠耀会は、勝田台圏域を受託し、勝

田台二丁目事務所を開設しました。



たことを思い出します。加者で、住民からとても高い評価を頂いておりました。

地域包括も開設して十五年目になりましたが、職員の増員により、事務所が手狭になり勝田台駅前に移転しています。『勝田台元気クラブ』もコロナ感染症予防の観点で今年は休止しておりますが、早い再開を目指し、活動できることを願っています。

『社会福祉法人翠耀会四十周年を祝して』  
元特養・生活相談員 内田 健一郎



深秋の候、社会福祉法人翠耀会におかれましては、益々ご隆昌のことと慶賀の至りに存

賀会を行っていたように記憶していますので、光陰矢の如しといった感を禁じえません。

私がお世話になった期間は、四十年のうち十年程度であります。その中で私の印象に残っていることがあります。一つは、グリーンヒルの特養介護職であった三年目に、施設のユニットケアという取り組みに携わる機会をいただきました。端的には、より個別にケアを行うための、いわゆる食事・入浴・排泄の三大ケアを中心に、業務の在り方や、方法の検討・実践です。今振り返れば成功失敗半々だったと思いますが、これらの取り組みで得た経験や課題が、後のグリーンヒル八千代台の開設に繋がったと思っております。

私が入職した平成十三年は、二十周年の祝

向けて、当該取り組み事例を紹介するため、全国セミナーにも参加させていただきました。この北海道でのことは、今でも私の良い思い出です。

もう一つは、津川理事長から、開発間もない八千代市の写真や、その頃から地域医療に携わってこられた創立者・朝戸会長の記録を拝見させていただき、会長の足跡を動画としてまとめる大役を任せられたことです。会長はよく、「患者さんと呼ばれば、どこでも行ったねえ」、「退院して行き場のない人が出ないようにグリーンヒルを作ったんだよ」と仰っていました。

私は現在、地域支援事業の在宅医療介護連携を担当しており、今後の在宅診療推進や入退院時連携支援の計画

現・千葉市役所 保健福祉局健康福祉部  
千葉市在宅医療・  
介護連携支援センター主査



平成18年 アニマルセラピー  
ご利用者が馬にまたがり乗馬体験





昭和三十七年 十月

朝戸医院開設（夜間診療午後六時～午後九時開始）

昭和三十九年十二月

医療法人社団恵仁会設立

（病床十三床・手術室OPEN）

昭和四十四年 十月

朝戸病院 新築五十二床OPEN

昭和五十六年 十月

社会福祉法人翠輝会設立

八千代市で初めての特別養護老人ホームとして

昭和五十七年 四月

老人短期保護事業開始・シヨートステイ十床

昭和五十九年 四月

グリーンヒル三十床増床

昭和六十一年 四月

痴呆老人特別介護棟二十床新設（千葉県初）

昭和六十一年 九月

グリーンヒルデイサービスセンター開設（千葉県初）

昭和六十二年 十月

セントマーガレット病院三二五床OPEN

平成 七年 三月

ピーターハウス（保育施設）新築移転

平成 七年 七月

病院デイケアサービス開始

平成十二年 四月

グリーンヒル指定訪問介護事業所 開設

平成十三年 一月

八千代市在宅介護支援センターグリーンヒル 開設

平成十五年 一月

グリーンヒル 逆デイサービス開始

平成十五年 二月

グリーンヒル 八千代台南デイホーム開設

（痴呆専用単独型 通所介護）

平成十六年 十二月

恵仁会 創立四十周年

平成十七年 四月

日本医療機能評価複合病院の認定取得

（財団法人 日本医療機能評価機構）

昭和二十八年

NHK放送開始

昭和三十一年

八千代台駅 開業

昭和三十三年

東京タワー完成

昭和三十五年

カラーテレビ放送開始

昭和三十九年

東京オリンピック開催

昭和四十二年

八千代町から八千代市へ

昭和四十三年

勝田台駅 開業

昭和四十七年

札幌オリンピック開催

昭和五十三年

成田空港開港

昭和五十八年

東京デイスニーランド開園・ファミコン発売

昭和六十三年

青函トンネル開通・瀬戸大橋開通

昭和六十四年

昭和天皇崩御 平成に改元

平成元年

消費税開始（3%）

平成三年

宮沢内閣成立・バブル経済崩壊

平成五年

Jリーグ開幕・細川内閣成立

平成六年

羽田孜内閣成立・村山富市内閣成立

平成八年

橋本龍太郎内閣成立・東葉高速鉄道開業

平成九年

消費税が5%となる

平成十年

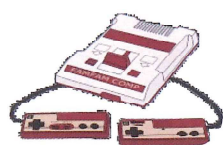
長野オリンピック開催・小淵恵三内閣成立

平成十二年

森喜朗内閣成立・三宅島噴火

平成十三年

USJ開業・小泉純一郎内閣成立





平成十八年 四月

八千代市受託

「八千代市勝田台地域包括支援センター」開始

平成十八年 七月

セントマーガレット訪問看護ステーション開設

平成十八年 九月

ISO9001:2000 認証取得

(社団法人日本能率協会審査登録センター)

平成十九年 十月

高齢者複合ケア施設グリーンヒル八千代台 開設

(小規模特別養護老人ホーム、短期入所生活介護)  
(小規模多機能型居宅介護)

平成二十年 四月

グリーンヒル 八千代台南テイクホーム

小規模多機能型居宅介護の開始に伴い休止

平成二十一年十二月

グリーンヒル八千代台訪問介護事業 開設

八千代台南元気クラブ 開設

平成二十二年 二月

グリーンヒル八千代台・八千代台西元気クラブ

(脳トレーニング) 開設

平成二十二年 十月

グリーンヒル創立三十周年

平成二十二年 五月

グリーンヒル八千代台南テイクホーム 再開

(小規模型テイクサービス 定員九名)

平成二十四年 七月

小規模多機能型居宅介護

サテライトグリーンヒル勝田台 開設

(登録定員 十二名)

平成二十八年 三月

放課後等テイクサービス「グリーンヒルキッズ」開設

平成三十年 三月

放課後等テイクサービス

「グリーンヒルキッズゆりのき台」開設

平成三十一年 四月

自立援助ホーム「グリーンヒル若葉ハウス」開設

平成十八年

安倍晋三内閣成立

平成十九年

福田康夫内閣成立

平成二十年

リーマンショック・麻生太郎内閣成立

平成二十一年

鳩山由紀夫内閣成立(民主党政権成立)

平成二十二年

菅直人内閣成立

平成二十三年

東日本大震災・野田佳彦内閣成立

平成二十四年

東京スカイツリー開業・第二次安倍内閣成立  
(自民党政権へ)

平成二十五年

消費税が8%となる

平成二十八年

熊本地震発生

平成三十一年

(「嵐」休業宣言発表・改元

令和元年

(五月) 天皇陛下即位 令和に改元

令和二年

(六月) 蒼井優さん・山里亮太氏結婚

令和三年

(七月) ジャニー喜田川氏死去

令和四年

(八月) 小泉進次郎氏と滝川クリステルさん結婚

令和五年

(九月) ラグビーW杯開幕 8強

令和六年

(十月) 即位礼正殿の儀・消費税10%へ

令和七年

(十一月) 流行語大賞「ワンチーム」

令和八年

(三月) 志村けん氏死去

令和九年

(四月) 新型コロナで緊急事態宣言

令和十年

(五月) 夏の甲子園中止 コロナ禍で戦後初

令和十一年

(七月) GoToトラベルキャンペーン

令和十二年

(八月) 安倍首相辞任・渡哲也氏死去

令和十三年

(九月) 菅義偉内閣成立

令和十四年

(十二月) 「嵐」三十一日をもって休業







社会福祉法人 翠燿会本部  
特別養護老人ホーム グリーンヒル  
八千代市(受託) デイケアセンター

令和2年10月発行  
編集・構成：秋庭 直子